

## 【様式3】

### 普及指導活動の概要

|       |                          |
|-------|--------------------------|
| 基本計画名 | 地域資源を活用した持続可能な農業生産モデルの育成 |
|-------|--------------------------|

## 1 計画の背景（現状、問題点）

### (1) 地域農業の概要

松阪地域の耕地面積は11,685haと県全体(58,000ha)の約2割を占めており、海沿いの平坦地から山沿いの山間地にかけて、三重県の中央部の東西に長く変化に富んだ地形となっています。海沿いの平坦地では、米、麦、大豆等の土地利用型作物を利用した担い手による大規模農業や集落営農が営まれるとともに、イチゴ、シメジなどの都市近郊型施設野菜やナバナ、モロヘイヤ、白ネギ、キャベツ、ハクサイなどの露地野菜の栽培などが熱心に取り組まれています。

また、山沿いの中山間地域では茶、柿、ミカンの栽培や伝統的野菜であるイセイモ等、それぞれの立地を活かした産地形成が図られています。

### (2) 現状・課題

地域農業においては高齢化に伴う担い手の減少が続いており、さらに燃料や肥料といった農業資材の価格高騰が経営を圧迫し、農業生産の継続を危ういものとしています。

一方で中山間地域を中心に、土づくりを基本とした持続的な農業生産が定着してきており、新規就農者や移住者を中心に新たな形態の農業が展開され始めています。また管内の多気町では町ぐるみで農業生産と学校給食のオーガニック化が進められ、未利用地域資源の堆肥利用に関する計画が推進されています。

こうした取り組みを地域農業再生に繋げるために、持続可能な農業の定着と農産物の流通(学校給食等への活用)に向けた支援が必要となります。

## 2 目標

疲弊した農村社会を再生し、将来にわたる農業の継続へと繋げるために、持続可能な農業生産への転換と、農産物の流通を通じた経済の仕組みの構築を目指します。

有機農業推進を掲げる多気町では、地元産有機農産物の学校給食への食材供給を進め、さらに有機農業推進に向けて、町内のキノコ栽培施設から排出される廃菌床を堆肥化し、町内の農業生産者に供給する計画を進めています。

多気町のこうした取り組みを地域農業再生に向けたモデルケースとしてとらえ、他地域への波及を図るとともに、持続可能な農業生産を志す多様な担い手の確保につなげます。

## (普及活動指標の考え方)

### 〈指標項目〉

| 指標項目                              | 令和<br>5年度 | 6年度 | 7年度 | 8年度 |
|-----------------------------------|-----------|-----|-----|-----|
|                                   | 目標値       | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| 持続可能な農業方式により生産された農産物等の学校給食への供給品目数 | 2         | 4   | 7   | 10  |
| 新たに持続可能な農業生産に取り組む生産者数             | 2         | 4   | 7   | 10  |
| 未利用資源である廃菌床の堆肥化に向けた供給量(t)         | 5         | 10  | 15  | 20  |

## 3 普及活動の内容、方法

### 〈活動内容〉

- ① 有機農産物の学校給食への供給促進に向けた関係機関との連携
- ② 持続可能な農業生産における、栽培管理上の課題共有と解決に向けた支援
- ③ 未利用資源である廃菌床の堆肥化に向けて関係機関と協働で実施した調査検討
- ④ 関係機関と消費者、生産者との連携強化

### 〈活動方法〉

- ① 有機農産物の学校給食への供給促進に向けた関係機関との連携
  - ・ 学校給食栄養士と有機農産物の学校給食食材への供給に向けた課題や今後の取組みについて意見交換
  - ・ 関係機関と協働で有機米の学校給食への導入に取り組む先進地へ視察
  - ・ 有機野菜の学校給食への供給に取り組む生産者への支援
- ② 持続可能な農業生産における栽培管理上の課題共有と解決に向けた支援
  - ・ 現地巡回を通じた有機栽培の水田の現状確認と、雑草害軽減に向けた提案
  - ・ 野菜栽培圃場での堆肥施用効果の検証
- ③ 未利用資源(廃菌床)の堆肥化に向けた調査検討
  - ・ 廃菌床の堆肥化に向けて原材料と配合割合を検討するために、関係機関と協働で堆肥を試作
  - ・ 関係機関と協働で廃菌床を用いた堆肥センター整備をおこなっている先進地を視察
- ④ 関係機関と消費者、生産者との連携強化
  - ・ R5年3月に関係機関で設立した、多気町有機農業推進協議会(多気町、JA、農業者、ホクト、農研、普及)に参加
  - ・ 農業者、住民(消費者)、学校給食関係者を交えた座談会での意見交換や提案助言

## 4 成果及び成果を上げた要因

### <活動結果>

#### ① 学校給食への供給促進

- ・学校給食関係者との意見交換を通じて、有機農産物の学校給食への積極的な導入を促すことができた。
- ・有機米の学校給食への導入に取り組む先進地への視察(令和5年11月 千葉県 いすみ市)を通じて、学校給食への地元産有機米導入促進の可能性を関係者間で共有でき、有機稲作の拡大と学校給食への供給に向けた具体的な協議を開始することができた。

#### ② 栽培管理支援

- ・有機栽培水田の現地巡回を通じて雑草害の現状を関係機関と確認・共有し、対策として複数回の代掻き実施や機械器具を用いた除草などの提案をおこなうことができた。
- ・野菜栽培圃場での堆肥施用の過不足が確認でき、施用基準の明確化の必要性が認識できた。

#### ③ 未利用資源(廃菌床)の堆肥化に向けた調査検討

- ・主材料の廃菌床のみではうまく発酵が進まず、他の素材との配合比率が重要であることが堆肥の試作をおこなったことで明らかになった。
- ・廃菌床を用いた堆肥センター整備をおこなっている先進地(令和5年6月 香川県東かがわ市)への視察により、大量生産による堆肥化には品質の維持に課題が多いことが明確になった。

#### ④ 関係機関と消費者、生産者との連携強化

- ・住民(消費者層)や学校給食栄養士との意見交換を行うことで、学校給食への有機食材の供給推進に対する意識を共有できた。
- ・多気町有機農業推進協議会への参加により、意見交換・情報共有の機会が増え、関係機関と協働で課題の把握と解決に向けた取組みが容易にできるようになった。

### <対象の変化>

- ・堆肥試作や水田・野菜の現地巡回等の日常活動を JA や役場等の関係機関と連携して実施したことで、堆肥供給や有機農業推進について共通の認識を持つことができた。
- ・R5年3月に設立した多気町有機農業推進協議会を通じた連携した活動により、関係機関が協働で課題の把握と解決に向けて容易に取り組めるようになった。
- ・住民(消費者層)や学校給食栄養士との意見交換を行うことで、学校給食への有機食材の供給を推し進めることができた。

### <目標と実績>

- ・持続可能な農業方式(有機農業)により生産された農産物等の学校給食への供給品目数  
目標10品目⇒今年度の実績10品目(タマネギ、ジャガイモ、ナス、ピーマン、カボチャ、  
サツマイモ、白ネギ、ハクサイ、ダイコン、キュウリ)

- ・新たに持続可能な農業生産(有機農業)に取り組む生産者数  
目標10名⇒今年度の実績1名(畑作)
- ・未利用資源である廃菌床の堆肥化に向けた供給(t)  
目標20t⇒今年度の実績10t

#### <成果を上げた要因>

- ・モデル地域に有機農業推進に積極的な多気町を選定したことにより、課題解決に向けて協働歩調を取ることができた。
- ・現地巡回や現地試験を関係機関と協働で実施したことにより、課題や今後必要な取組みについて共有化し共同で取り組むことができた。

## 5 残された問題点及び今後の取組

- ① 廃菌床堆肥の生産圃場での実証
  - ・廃菌床堆肥を水田や野菜の生産圃場に施用し、生育状況の確認と施用量の明確な基準の検討
- ② 堆肥供給体制の整備
  - ・菌床堆肥供給に向けた堆肥舎整備に関する関係機関との協議
- ③ 生産物の流通促進
  - ・有機稲作の推進と有機栽培米の学校給食への供給に向けた仕組みづくりに関する関係機関との協議・連携
  - ・生産物を手軽に購入できる直売コーナーの設置やマルシェ等の実施の検討
- ④ 担い手の育成・確保
  - ・有機農業を志す新規就農者の研修受け入れと就農後の支援
  - ・新たに有機農業へと転換した生産者への栽培管理上の支援
- ⑤ 持続可能な農業生産を推進・定着させるための食育の実践
  - ・給食への取組みと連動した、学校教育での食育の実施の検討

課題名) 地域資源を活用した持続可能な農業生産モデルの育成

松阪地域農業改良普及センター

**活動対象** 多気町内農業生産者、多気町役場、JA 多気郡、多気町住民(消費者)

## 1 背景とねらい

高齢化による農業人口減少に加えて、燃料や肥料といった農業資材の価格高騰が農業生産を圧迫しており、農業の持続的発展が困難となっています。

一方で中山間地の移住者や新規就農者を中心に、土づくりを基本とした持続的な農業生産が展開されています。疲弊した農村社会を再生し将来にわたる農業へ繋げるために、持続可能な方法への転換と農産物の流通を通じた経済の仕組みづくり構築を目指します。

有機農業推進を掲げる多気町では、有機農産物の学校給食への供給を進め、さらに町内のキノコ栽培施設から排出される廃菌床の堆肥化を計画しています。こうした取組みを地域農業再生に向けたモデルケースとしてとらえ他地域への波及を図るとともに、多様な担い手の確保につなげます

## 2 活動内容

(1) 関係機関と協働で実施した、廃菌床の堆肥化に向けた検討

- ① 廃菌床の堆肥化に向けて原材料の配合割合を検討するために、関係機関と協働で堆肥づくりの試作を行いました。



関係機関と協働で実施した廃菌床の堆肥試作

- ② 本格的な堆肥の流通・活用に向けて、廃菌床を用いた堆肥センター整備を行っている香川県東かがわ市への視察を行いました。



香川県東かがわ市の廃菌床を用いた堆肥センター

(2) 持続可能な農業生産における栽培管理上の課題共有と解決に向けた支援

- ① 有機栽培の水田を巡回し、雑草害軽減に向けて複数回の代掻きの提案を行いました。  
② 野菜栽培に関して、堆肥施用効果を検証しました。



有機栽培の水田(左)と野菜(中)の現地巡回。生産者考案の水田除草機(右)

### (3) 関係機関と消費者、生産者との連携強化

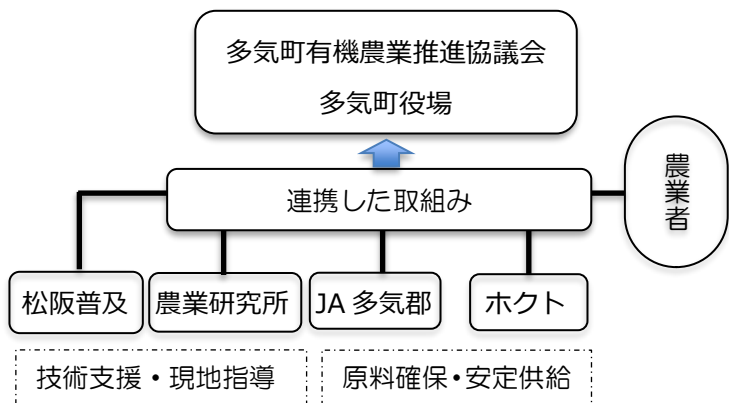
- ① 連携した有機農業推進のために、昨年3月に多気町で設立された、多気町有機農業推進協議会(多気町、JA、生産者、ホクト、農研、普及)に参加しました。
- ② 米の有機栽培を進め、学校給食のほぼ全量を有機栽培米で賄っている千葉県いすみ市の事例を視察しました。
- ③ 農業生産者、住民(消費者)、学校給食関係者を交えて、有機農業推進にかかる意見交換や提案助言を行いました。



有機米の栽培推進と学校給食への供給を進める千葉県いすみ市への視察



多気町有機農業推進協議会への参加



多気町における有機農業推進体制

### 3 活動成果

(1) 先進地視察や現地巡回等実施により、今後の取り組み課題が明確になりました。

- ・ 廃菌床堆肥の供給体制と品質の確保
- ・ 堆肥の明確な施用基準の作成
- ・ 有機稲作の実践と有機米の学校給食への供給
- ・ 多様な担い手の育成、確保

(2) 学校給食栄養士や住民(消費者層)との意見交換を行うことで、学校給食への有機農産物の活用を促すことができました。